

杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて
杉戸を再発見

第98回

郷土の偉人・大島有隣
石門心学入門 ②

石田梅岩の「心学」と、その直弟子である手島堵庵との「心学」とに、あるいは両者の講釈方法等には、何か違いは、あったのでしょうか。前述したように、梅岩は「性を知る」というように「性」という語を使用しており、自己の教えや学びのことを「学問」というだけでした。これに対し、堵庵は難解な「性」の語を避け、平易な「心」、「心学」という語を使用し始めました。

また、梅岩の講釈エリアは、京都市中や大坂近郊等、地域的には極めて限定的でした。梅岩没後、堵庵は石門心学普及のために組織化を図り、講舎を開設、それらを民衆教化の拠点としたのでした。京都に修正舎時習舎、明倫舎の三舎を設けたのを皮切りに、大坂、やがては江戸にも心学講舎が開設されるに至りました。こうした講舎拡大に伴い、心学者も増加し、その組織化が図られていきます。前述の京都三舎を組織の頂点とし、後には全国各地の講舎許可は、この三舎による連署の授与という形でなされるようになりました。これを「三舎印鑑」といいます。

堵庵は、修行や教化方法も改め、「会輔」と呼ばれる共同学習、勉強会と、不特定多数

の聴衆に向けて語る「講釈」との比重を格段に高めたのでした。端的に言えば、討論や話し合いを中心とした学習方法と、大人数を相手にした語りとにウエイトを置いたのでした。堵庵の努力が実り、石門心学は全国各地に普及していきませんが、その最大の要因は、やがて「心学道話」と呼ばれることになる独特の語り方の発明にもあったようです。

そうした中で、江戸に出て講舎「参前舎」を設立、関東地方にも石門心学を普及させたのが、堵庵の弟子であり、大島有隣、関口保宣の師でもある中沢道二でした。(つづく)



手島堵庵肖像

(社会教育課 町史・文化財担当編)

東京2020オリンピック聖火リレーから1年、杉戸町のレガシーを未来に繋ぐ

2021年7月6日(火)～8日(木)の3日間、埼玉県を巡る「東京2020オリンピック聖火リレー」が、県内40市町で実施されました。その中で、埼玉県2日目(7月7日)には、杉戸町役場(杉戸町)から東武動物公園駅東口(宮代町)までの約1.3kmを、6名の聖火ランナーが希望の光を繋ぎました。

あれから1年・・・、町ではこの記録と記憶をレガシー(後世への遺産)とするため、オリンピック聖火リレールート(県道堤根杉戸線)の沿道に「東京2020オリンピック聖火リレーモニュメント」を設置し、2022年7月17日(日)、杉戸夏まつり開催にあわせて皆さまにお披露目いたします。

杉戸宿の歴史を今に繋ぐ「高札場(復元)」の傍らに、杉戸町の今を未来に繋ぐモニュメントが寄り添う、町の新たなレガシースポットの誕生です。



7月17日(日)公開!

問合せ 杉戸町教育委員会 社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



UD FONT
by MORISAWA

ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE